

クローズアップ NGO・NPO

スタディツアー研究会
代表 米山 敏裕

スタディツアーの質の向上をめざして

■ スタディツアー研究会の成り立ち

1997年、関東地区にあるNGOでスタディツアー、ワークキャンプ（以下ツアーという）を企画、運営している団体がネットワーク組織を立ち上げました。活動内容としては、ツアーの質の向上をめざしたNGO担当者の能力強化のための研修や、ツアー参加者を募るための広報活動、合同説明会の開催などであり、毎年定期的に行われてきました。当時、約10団体が集まり、さまざまな活動を推進してきました。また、2000年前後には、NGOが企画運営する海外でのツアーは、全国に400団体あるNGOのうち半分の200団体が実施していました。また、参加者も、調査では約2万人となっていました。

■ ツアーの変遷

NGOが実施してきたスタディツアーは、早い時期には1960年代から行われています。このころのツアーは数も少なく、NGOが事業対象地に行っている地域の視察が中心であり、支援事業の進捗をモニタリングしていくものでした。このような形態は1980年代まで続きましたが、ツアー参加者も会を支援している人たちが中心で、支援の成果を見てもらったり、受益者となっている現地の人たちとの交流活動も行われていました。ツアーに参加した人にとっては、自分が支払っている寄付金や会費が有意義に使われていることを確認できる機会でもありました。また、NGOの活動を広く知ってもらうための広報でもあり、財政

基盤の構築にもつながるものでした。

一方、1990年代になると、NGOだけではなく民間や自治体の国際交流団体がツアーを実施するようになり、大学でも教員が企画して国際協力の現場に連れていくようになったり、大学に設けられた海外と交流活動を推進するセンターが企画・運営するようになりました。2000年代になると旅行会社もNGOとタイアップしてツアーを行うようになり、幅広い年代の人たちがツアーに参加するようになりました。

とくに、途上国の現状を視察し、課題について考えていくというスタディ型から施設や学校でのボランティア活動型、植林や施設建設をするワーク型、農村部や都市部に滞在してテーマをもって調査活動をしていくものなどツアーの形態も多種多様となってきています。以前のようにしっかり学ぶというスタイルが少なくなり、まずは途上国に出かけてみて、いろいろなことを体験してみようというツアーが多くなっている傾向にあります。



事前研修会はツアー参加者にとって大切な学びの機会となる

ツアーの原点である異文化の世界で多様性や価値観の違いを学んでいくという意味では、海外での体験や交流はその一歩といえます。

スタディツアー研究会の活動

ツアーの変遷をみてもわかるように、参加者やプログラムは多様化してきています。NGO側も、どのようなプログラムを立てたらよいか、学びの多いツアーにするにはどのようなことに配慮したらよいかをNGO担当者が協議する研修会を実施してきました。毎年2回、関心をもっている人たちを対象にして合同説明会を開催し、年に1回全国にあるNGOでツアー担当者を対象とした全国研究集會も行ってきました。テーマとしては「スタディツアーの危機管理」「スタディツアー担当者パワーアップ」「スタディツアーの評価」「学生の海外体験学習・大学のプログラムとNGOのスタディツアーの連携を求めて」「感染症対策」「大学とNGOの連携をさぐる」「スタディツアー運営力・満点セミナー・NGO担当者スキルアップ」を挙げ、毎回テーマに沿った専門家や現地ツアー受入団体から担当者を招いて現地でのインパクトや留意点などについて研修を行ってきました。毎回研修内容をまとめて報告書を出版し、ツアーを企画運営するNGO担当者をはじめ、大学関係者、自治体の担当者に活用してもらっています。

NGO担当者が取り組まなければならない事柄は多く、参加者募集の広報、案内書づくりにはじまり、現地でのプログラム、安全面、移動手段の手配、宿泊、食事の手配、健康管理、保険の手続きなど実に多くの業務があり、それらをどのようにマネージしていくかについて研究会で相談にのったり、NGOのネットワークをもつ全国各地



ホームステイを楽しむツアー参加者

で研修会を開催しています。ツアーの経験が浅いNGO担当者にとっては、研修会は情報共有やスキルアップができる場とな

り好評を得ています。

2010年からは、全国のNGOが実施するスタディツアーの最新情報を掲載するウェブサイト「スタディツアーPASSPORT (<http://ngo-studytour.jp>)」を公開しています。

ますます必要となる ツアーの危機管理

最近、研修の依頼で多くなっているのが危機管理研修です。ツアー参加者の多様性にともない、十分な危機管理がなされないままツアーが実施されていることがあります。NGOに限らず大学機関でも少なからず事故や病気などが発生しています。100%安心安全という意識で途上国に出かけると、さまざまな危険、危機にさらされることになり、なかでも一番多いのが病気です。衛生面で過度に守られている日本人が衛生状態のよくない場所にいくと、病気になる確率は高くなります。その際、ツアー企画運営担当者が十分な知識や技能を身につけておかないと大事故、大惨事につながります。とくにツアーでは遠隔地に行くことが多く、医療施設など整備さ



危機管理研修会

れてないことがあります。万が一事故が起こった場合の対応策などを講じておかなければ、状況が悪くなりツアーを企画運営した団体・機関の社会的信頼を失うことにもなります。

これまで行ってきた研修会では、まだまだ危機管理を怠っている団体・機関、また認識が薄い参加者が見受けられます。海外での活動が今後ますます増えていくなかで、啓発活動としてのスタディツアー研究会の役割もまだまだあると考えています。ツアー企画、広報、危機管理面での研修講師を派遣していますのでご相談ください。参加者が満足し、学びの多いツアーは周到な準備があってこそ実現できます。